

令和2年度 学校評価を受けて（2学期）

<結果からうかがえる成果>

- 「先生は授業内容を一生懸命教えてくれる」と感じる児童は8割を超えている。また、「みんなで何かをするのは楽しい」と感じる児童が8割近くいる。このことから、人間関係づくりという学校でしかできない学びを、児童が今まさに実感している様子がうかがえる。
- 「教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取り組みを理解できる」という保護者が5割を超える中で、「わが子は、学校生活を楽しんでおり、友人関係も良好である」と感じている保護者が5割近くいる。教職員の働き方が変わりつつあることを認識しつつ、わが子が気持ちよく学校生活を送ることができていることを評価していただいている。
- 「自分は児童が主体的に家庭学習に取り組めるような指導をしている」教職員や「自分は、聴き方や話し方など、子どものモデルになるような授業をしている」と感じている教職員の割合が増えた。1学期の学校評価を振り返ることや、授業が本格的に始まった中での取り組みの成果として、指導の改善を図る教職員が増えてきた。

<結果からうかがえる課題>

- コロナウイルス対策の中で、中学校区としてはほぼ交流のなかった今年度は、「本校は、中学校区として目指す子どもの姿の実現に向けて取り組んでいる」と感じている教職員が非常に少なくなっている。次年度は、対策を講じながら少しずつ交流を進めていけるようにしたい。
- 「自分は、将来の夢やめざす目標をもっている」という児童が7割いる。しかし、「本校は、児童が夢や目標をもち、その実現に向け努力するよう、キャリア教育に力を入れている」と感じている教職員は2割を切っている。児童の考えるキャリアと教職員の考えるキャリアに隔たりがあることも考えられ、今後、小学校におけるキャリア教育の目標を明確にし、自立するために必要な能力を身につけさせたい。
- 「わが子は、積極的に読書に取り組んでいる」「親として、情報モラルについて、わが子の年齢に応じた指導を心がけている」「わが子は、将来の夢やめざす目標をもっている」と感じている保護者が2割程度である。児童に対して意識が向上するように声をかけるだけでなく、学校から保護者が取り組みやすい方法をお知らせする等考えたい。